

◆物価の二極化鮮明！

このところの原油安で、ガソリン代が前年比▲17.8%となり、電気料金は▲5.1%ガス代▲6.4%となる一方で天候不順や円安の影響を受けて食料品が高騰を続けている。生鮮食品が7.6%、キャベツなどは29.2%、さんま10.6%、パンが2.2%、チョコレートが18.5%、スペゲティー10.6%等、またトイレットペーパーが4.4%、テレビ8.7%等と前年同期に比べ高騰している。今後もこの流れは続くものと思われる。消費者は身近な生活に必要なもの以外の出費を抑えている。



◆原油安、いよいよ消耗戦に突入か？



「安い原油」が世界の新たな常識となりつつある。シェール革命を起点とする需給の緩みに、新興国経済の減速が追い打ちをかけた結果だ。それに日本等先進国のハイブリット化や他のエネルギーに転換する動きも大きく、世界の経済、政治秩序も調整を迫られる。原油安は光明か波乱の種か？今後の成り行きが注目される。アメリカのシェールオイル、原油価格がたった1年で100ドルから40ドル台に下がっても、多くの油井は生き残っている。それには急速な技術革新と効率化が進んだのが要因とされている。一方サウジ、イラン、インドネシアも価格下落にも対応し増産を続けている。今のところ産油国の減産の動きは見られない。またロシアの原油では中国とのパイプラインを敷設してとの計画も世界的な原油価格の下落で価格交渉が上手くいかず破談となってしまっている。

◆流通小売業の10月～12月の景気予測！

スーパー、カット野菜やカットフルーツ、下処理済み鮮魚等生鮮食品が底堅く惣菜との合計売上高が全体の過半を超える店舗も増える。コンビニ、8～9月は天候不順で苦戦したチェーンもあったが、今後寒暖など天候要因が影響しそうだが、各社おでんの種類を地域ごとに替える等、よりきめ細かい商品戦略を進める。百貨店、過去最高のペースで訪日外国人客の需要拡大が続く。主力商品の衣料品は天候次第、中国経済の減速が不安要素になるだろう。外食、値上げによる客数の落ち込みが回復しつつある。売上げも回復基調ファーストフード、ファミレスも好調で業績悪化に歯止めがかかった感じ。

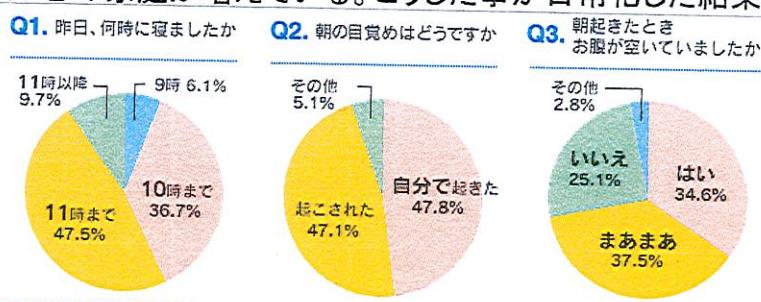


◆急速に変化している子供の食環境！

「食」という字は「人を良くする」と書くように、食は心身の健康な人間を育てる為の基本。ところが今、日本の子供たちは、偏食・肥満・味覚障害・アレルギー症など、食に関して様々な問題を抱えている。その原因是子供のライフスタイルと環境の変化にある。核家族化、両親の共働き、加工食品や外食産業の増加など、家庭内の食卓事情は大きく変わった。そうした中「作るのが簡単だから」「子供がよく食べるから」と加工食品やファーストフードまかせの家庭が増えている。こうした事が日常化した結果、子供の心身の発達や状態に大きな影響が出て来ている。

ある調査で、中学生が朝食をとったかどうかを調べたところ、1～2割が朝食を抜いていました。その背景には、就寝時間や朝食の時間が不規則だったりと、彼らのライフスタイルが深く関係していると思われます。そして、朝食をとった子どものほうが、体力や運動能力において良い結果が出ており、中学生の身体づくりに朝の食事が大きな影響を及ぼしていることが明らかにされています。

■中学生のライフスタイルの一例



◆ 食品容器・包装資材・総合商社 ◆ アロン・トレーディング株式会社

ALON
◆ 対応の良さ日本一！
アロンに聞けば何でも判る！
親切、丁寧、スピード回答！

本 社 東京都千代田区神田佐久間町1-14 ☎ 03-3257-1701代
仙台営業所 仙台市青葉区中央4-8-17 ☎ 022-211-0701代
札幌営業所 札幌市豊平区月寒西1条3-5-1 ☎ 011-853-2597代